

特定非営利活動法人 会員誌
ふれあいサポート館アトリエ



4・5月号

令和6年4月17日



⇒E-mail fureainpo@gmail.com

⇒ホームページ

<http://www.fureai-support.jp/>

■法人事務所・アトリエ	TEL 0244 (36) 5420
〒976-0042 相馬市中村字北町1-8	FAX 0244 (32) 0965
●デイサービス友遊(北町)	TEL 0244 (26) 5424
●デイサービス友遊(南飯淵)	TEL 0244 (36) 3582
●中央児童センター(ポニー・ことり)	TEL 0244 (35) 2008
●飯豊小放課後児童クラブ(ひまわり)	TEL 0244 (37) 8870
●日立木小放課後児童クラブ(めだか)	TEL
0244 (35) 3400	
●磯部小放課後児童クラブ(げんき)	TEL 0244 (32) 1787
●八幡小放課後児童クラブ(なのはな)	TEL 0244 (26) 9011
●相馬こどものみんなの家	TEL 0244 (35) 4700

令和6年度、ふれあいサポート館アトリエの活動がスタートしました。

創立当初より、多くの皆様のご理解とご協力をいただきながら、子ども達的情操教育に携わり、59年目を迎えました。

アトリエはじめ中央児童センター・桜丘小・飯豊小・日立木小・磯部小・八幡小の放課後児童クラブも加わり
子ども達が、デイサービスの皆さんと異世代交流をしながらお互いの能力を活かしあい

どの世代も、イキイキ キラキラ みんないい笑顔 で過ごせる居場所作りをデザインし、活動しております。

今年度も、多くの出会いを楽しみに、明るい未来に向け、いろいろな関係性を作っていきたいと思ひます。



NPO 法人 ふれあいサポート館アトリエ 紹介

理事長 倉本信之

副理事長 門馬浩之

顧問・理事 渡辺雄彦(宮城教育大学名誉教授)

委託管理事業
相馬市中央児童センター

館長 倉本信之

館長代理 門馬浩之・倉本まり子

主任 門馬美樹 相談員 倉本正子

カウンセラー 飯高有貴

・おやこきょうしつ ・もりっこサポート

・放課後児童クラブ(ことり・ポニークラブ)

星見旬子・菊池菜津美・佐藤光江

門馬日菜・桜田祐実

・飯豊小放課後児童クラブ(ひまわりクラブ)

森菜々・横山歩奈・三村未来・佐藤楓佳

・日立木小放課後児童クラブ(めだかクラブ)

立谷良栄・岡崎花奈子・林田干明

・磯部小放課後児童クラブ(げんきクラブ)

門馬浩之・熊川恵子

・八幡小放課後児童クラブ(なのはなクラブ)

佐藤桃子・太田逸希

・相馬こどものみんなの家

稲昌信・菅野貴子・佐々木章子

かがそうけいきょうしつ
相馬絵画研究所

・未就学児 水野友美子・倉本まり子

・小学生 遠藤裕子・倉本まり子

・中学生～ 倉本まり子・倉本信之

・陶芸教室 倉本まり子・門馬浩之・倉本律子

・特別授業 倉本信之・倉本郁哉

門馬美樹・水野友美子

・アシスタント 佐藤凧・小野内清人

岩崎百合恵・吉田百合子

ギャラリー絵のある部屋

管理者 門馬美樹

学芸員 倉本まり子・倉本律子

常設していますのでお気軽にご来館下さい

長寿の森園

代表 門馬浩之

南飯淵にある長寿の森園には目薬の木
だけでなく、果物・野菜も栽培されています。

介護事業
友遊

施設長 倉本哲哉

管理者 倉本信之・門馬浩之

社会福祉士・生活相談員 倉本正子・吉田千賀

社会福祉主事・生活相談員 倉本まり子

・デイサービス友遊(南)主任 佐藤栄美子

・デイサービス友遊(北)主任 藤田まどか

介護士 林光子・反畑憂季奈・榎本標

松本やよい・高田幸江・永田弘美

看護師 臺内絹子・臺内久枝・小暮優子

渡部美枝子・渡邊澄江

・訪問介護友遊

サービス提供責任者 村上悦子

介護士 菅野ゆかり・黒木昭子・狩野陽子

富田久美子・永田弘美・岩崎百合恵

・居宅介護事業所

ケアマネージャー 倉本哲哉

・介護タクシー友遊 ・イキイキ友遊塾

みんな
なかよし
たのしくね



「仲良し」
手彩色木版画
倉本信之作

今年度もいよいよスタート！ 水野 友美子

幼児期は、これから成長していく中で土台となる時期。体を使って五感を働かせ、体を動かして体力を付け、心豊かにしてあげることが大事ですね。楽しくのびのび活動ができるような雰囲気心掛けています。上手に描いたり造ったりする技法の指導も大事ですが、その前に子ども達の話の聞いたり、声をかけたりすることに力を入れ「〇〇したい」と意欲が出るよう導きたいと思っています。

「やる気」と「意欲」があれば、その効果は期待できます。何事も好きになれば長く続き、長く続けば力もつきます。お子様の大事な時間をお預かりするわけですから「楽しい！」「毎日行きたい！」と、言ってもらえるような魅力的な教室になるよう、頑張ります。絵画教室では、限られた短い時間の中ではありますが、「遊び」「体験」を通したカリキュラムで取り組んでいきます。

子ども達がひらめき想像し、創造ができるようお手伝いしたいと思ひます。1年間よろしくお願ひします。

59年目のかがぞうけいきょうしつ

遠藤 裕子

今年度も「かがぞうけいきょうしつ」がスタートします。

第一期生である私が、59年目にまた、絵画教室に関わっていることに縁を感じます。59年前といえば、高度成長期の真っ只中で生活水準が向上し、現在の物質的に豊かな日本の原型となった時代です。ただ絵を描くことが好きで通った「絵画教室」でしたが、半世紀以上過ぎた今、「かがぞうけいきょうしつ」の役割は、とても重要なものになってきていると感じます。

「かがぞうけいきょうしつ」の時間の中では、子どもたちがよさや可能性を高め合い、認め合っている様子を肌で感じることができます。「いいこと考えた！」だれも聞いてないけど、自然にでるつぶやき。「それいいね！」「すごい！」言われて嬉しそうな表情の友だち。「どうすれば思うようにできるのかな」試行錯誤する姿。そして、田植え、芋掘り、味噌造りなどの縦割り班での体験活動。様々な学校、異年齢の子どもたちの中で仲間意識が芽生えてくるのも目に見えて感じます。人と自然とのつながる体験を積み重ねることにより、仲間とのコミュニケーション能力や自立心、協調性、責任感など社会で求められる多くの能力が育まれています。

20年後、30年後、社会の主人公として目の前の問題に立ち向かっているのは今の大人ではなく、子どもたちです。今、子どもたちが「イキイキ キラキラ いい笑顔」で活動することが、よりよい未来につながると信じて、今年度も頑張ります！

ひ孫との鹿狼山登山

倉本 まり子

年度末の土曜日、親も祖父母も仕事で忙しいというので、ひ孫の子守りをお願いされた。さて、何をしてお相手しようかと考えた。天気も予報では、晴れマークだったので鹿狼山登山を計画。当日は晴れの予報だが前日は雨。親は心配になったのか、確認の電話が入る。私も親の気持ちを察して、「状況を見てどうするか決めるよ。」と返事。しかし、当日は朝から快晴で気温も暖かく登山日和になる。足腰手術後初登山なので、4歳のひ孫と同レベルで登れるかな・・・？ ワクワクドキドキしていると、朝早くまたもや心配の電話。「タベ雨降ったし、のぼるの？」「取り合えず行ってみて、状態見て決めるよ・・・」

朝9時前、親の心配をよそに元気なひ孫たちの顔。ミルクィと4歳と6歳のひ孫と歳の差70~80才違うじいちゃん・ばあちゃんの4人と一匹でアトリエ出発。鹿狼山の登山口駐車場には30台あまりの車があり、すでに下山して帰る人達もいた。私達も登山開始。まずは登山口の鹿と狼の像の前で記念写真を撮る。4歳のひ孫がミルクィと先頭に歩き、6歳のひ孫が続く。カメラを持ってきた6才のひ孫が登山道の傍らに咲いていたカタクリの花を見つけパチリ。滝のようになっている水辺をパチリ。杉ボックリを見つけたり、テントウ虫におどろいたり・・・下山して来た方たちには元気にご挨拶。イキイキいい笑顔になっていくひ孫の顔をみて、こちらまでウキウキになった一時。1時間半くらいで山頂に到着。ひだまりで食べた味噌おにぎりと塩おにぎりの美味しかったこと。そこに蝶々が2匹飛んできたり・・・春うららの自然をいっぱい体感できた鹿狼山だった。

一休みして下山。近道して行こうということになり、帰り道は段差があり大変。それなのにミルクィはじめひ孫たちは私の先をどんどん進み距離が離れていく。とうとう足が動かなくなりしゃがみこんだら今度は立ち上がれない。膝が笑うどころか下半身にもう力が入らない。「待ってて・・・おばあちゃんあるけない・・・」の声に「ぼくがたすけてくる・・・」と、戻ってきてくれ、私の顔を覗き込み「だいじょうぶ・・・？」と心配げな顔。待っていてくれたお姉ちゃんも「おばあちゃん杖につかまって・・・私が引っ張るから」何て優しい二人。「疲れた」とか「おんぶして」なんて言われるかと心配していたのに、いたわる優しい気持ちが芽吹いていたひ孫たちを見て、とっても嬉しかった。



私の今回の登山は「行きはよいよい帰りは怖い」という言葉通りだった。でも、もう登山などできないと思っていたのに、ひ孫の手を借りて何とか下山できたことに拍手。そしてひ孫たちの成長ぶりには感動。

親にだったらわがままを言っていたらろうに、すっかりお兄ちゃんおねえちゃんの顔。また登りたいというひ孫たちの声。思い出に残る貴重な一日となった鹿狼山登山だった。

核家族の現代社会、子育て(教育)には、家族の関係性や日頃からのたくさん人間関係の築きあげが大切だと、ひ孫達をみてあらためて感じた。送り出してくれた親(孫)にも感謝！ ありがとう！！

思い出アルバム制作と会員誌発行のお願い

毎年、成長の記録のひとつとしてアルバム編集をしています。自分たちで描いた一枚の絵と自筆のサイン、自画像作品を差し込み、「手造りの本」として企画。思い出に残したい1コマを加え、かがぞうけいきょうしつでの一年の活動の記録をまとめます。編集部一同、一人ひとりがアルバムを手にとった時の感動を考えながら、編集しております。今年度も、創立より59年目の「思い出アルバムこどものえ」の制作を計画しております。また隔月発行で会員誌も作成してまいります。皆様からのご寄稿や情報提供でグレードアップした内容をお届けしたいと思ひますのでご寄稿のほどお願ひ申し上げます。

